

〈序文〉

虚血性心疾患の克服を目指して

片山 善章

It aims at overcoming ischemic heart disease

Yoshiaki Katayama

今回の特集は「虚血性心疾患のマーカー」がテーマであるが、序文タイトルは「虚血性心疾患の克服を目指して」である。「克服を目指す」となると、虚血性心疾患の予防の観点から「成人病」、「生活習慣病」について、まず、言及する必要がある。

40歳頃からの成人が罹りやすく、直接的な死亡の原因にもなりやすい悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧などの慢性疾患の予防が国民の保健衛生上、非常に重要となり、これらの疾患を総称して1957年（昭和32年）以後、「成人病」と呼ばれた。これは早期発見・早期治療という二次予防的なところを中心にとらえた概念であった。言い換えれば病気あるいはrisk factorを「点」としてとらえ、脳卒中、心臓病など、ある日突然やってくる点としての出来事ということになり、厚生省が昭和30年代初頭に使い始めた行政用語であった。しかし、これらの疾患は食生活、喫煙、飲酒、運動、休養など長い間の生活習慣と深い関係をもっていることから1996年12月からは、「生活習慣病 (Life-style Related Diseases)」という呼称を用いることになった。すなわち、もっと根っここのところにある生活習慣から抑えようという一次予防的志向である。言い換えれば、時間軸の中でとら

え、個体内でのrisk factorは長い時間軸の中で、少しずつ生活習慣の影響を受けながら積み重なっていくものであり、生活習慣に「病」がついているのは、国民の健康状態に対するとらえ方の一つとして、平成8年の公衆衛生審議会で提唱された行政用語である。

したがって、成人病と呼ばれていた悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などは生活習慣病と呼称されるようになった。この三大生活習慣病のうち、心疾患死亡は1960年からは3位、1985年からは2位になったり3位になったり、脳血管疾患と順位が前後している。1997年以降は第2位になっている。この順位変動は1995年の新しい死亡診断書では、注意書きによって「心不全」の記載を減らす工夫をしたためである。2005年の心疾患死亡数は173,026人で、国民総死亡の16.0%を占めており2位である。欧米諸国では心疾患の死因が第1位である国が多く、死亡率はアメリカでわが国の約1.5倍、イギリスでは約3.5倍である。虚血性心疾患においてはアメリカでわが国の約3.0倍、イギリスでは約3.5倍となっている。わが国で心疾患の約50%を占める虚血性心疾患に対して、高血圧、LDLコレステロール血症、喫煙が危険因子といわれている。その他、動物性脂肪過剰摂取などのカロリーの取り

神戸常盤大学保健科学部 医療検査学科
〒653-0838兵庫県神戸市長田区大谷町2-6-2

Department of Medical Technology,
Division of Faculty of Health Science,
Kobe Tokiwa University,
2-6-2 Ohtani-cho, Nagata-ku, Koube, Hyogo 653-0838,
Japan

過ぎによる肥満、糖尿病、ストレス、喫煙、運動不足、タイプA行動パターンなどがあげられる。したがって、第1次予防は高血圧管理、食生活の改善、禁煙が中心であり、ストレスのない社会環境や適度な運動なども効果がある。

虚血性心疾患は日常生活では見かけ上健康あるいは無症状である糖尿病、高脂血症、高血圧症、肥満が食事、運動、喫煙、飲酒などの生活要因が加わって発症するということになることは述べが、表に示すように「怖いのは自覚症状のない病気」「生活習慣病のほとんどが無症状」ということになり、動脈硬化が原因で種々の疾患・病態が惹起される。特に冠動脈硬化が原因で心筋梗塞が発症することは明らかになっている。最近、中等度以下の動脈硬化性冠狭窄部位が急速に進行して心筋梗塞が起こることが判明してきている。

以上のように「虚血性心疾患の克服」ということになると予防医学が重要になるが、それを目的とした特定検診が昨年4月から実施されて

いる。

しかし、現状では心疾患死亡の順位は2位であり、特に虚血性心疾患の予知、診断・治療の観点からは虚血性心疾患のマーカーを測定する。したがって、今回の特集は「虚血性心疾患のマーカー」について紹介するのが目的である。

従来から用いられてきたマーカーはCK (CK-MB)、AST、LD (LD1)、ミオグロビン (MGB)、ミオシン軽鎖、トロポニンT (TropT)、トロポニンI (Trop I) などが一般的であった。また、H-FABP、CK-isoform、米田らが報告しているPGAM、mAST/sASTなどもある。予知マーカーとしてレムナントリポ蛋白、高感度CRP、コクサッキーウイルス、サイトメガロウイルス、クラミジアなどの微生物、炎症性サイトカイン、接着因子、BNP、ANP、NT-proBNP、さらには遺伝子検査、他、各種のマーカーがある。これらのマーカーの特徴を各専門の先生方に述べていただいた。最新の詳細な情報が満載されている。

自覚症状のない病気	食事、運動、喫煙、飲酒などの生活要因が加わって病気が発症
1. 高血圧	→動脈硬化→心筋梗塞・脳梗塞、動脈瘤破裂
2. 糖尿病	→糖尿病性網膜症→糖尿病性腎症、神経症、血管障害→動脈硬化
3. 高脂血症	→総コレステロール、中性脂肪の上昇→動脈硬化
4. 高尿酸血症	→動脈硬化→心筋梗塞
5. 肥満	→動脈硬化、糖尿病
6. 煙草依存症	→動脈硬化、肺ガン・肺気腫→二次喫煙者に影響が大